

# 令和6年度 赤来中学校研究構想 ～学力向上に向けた取組について～

## 1 学校教育目標

『あふれる活力とあたたかい心をもち、たくましく生きぬく生徒の育成』

○あふれる活力とは

- (1) ものごとを多角的・多面的に捉え、主体的・創造的に挑戦しようとする力
- (2) 真剣に学習に取り組み、課題を見つけ、その解決に向けて仲間と協力しながら合意形成を図り、行動できる力
- (3) ルールやマナー、望ましい生活習慣や食習慣を大切に、行動できる力

○あたたかい心とは

- (1) 自分も他人も愛し、違いを理解し、他者と協同する心
- (2) 柔らかい感性をもち、感動する心

○たくましく生き抜くとは

- (1) 苦難や挫折などにくじけず、自らの力や他者の力を借りて、やり遂げようとする力
- (2) ふるさとへの貢献を目指し、何事も最後までやり遂げようとする力
- (3) 心身を鍛え、望ましい生活習慣の確立、健康の維持・増進・回復に努める心

## 2 研究主題

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善と学びに向かう生徒の育成  
～ 授業と家庭学習を効果的につなげた取組 ～

## 3 本校の学力向上に向けた取組に係る状況

本校では、生徒の学力向上を目指して「学習の手引き」を作成し、分かりやすく家庭学習の進め方を伝え、定期的に赤中テスト、学習カウンセリングを実施するなど、学習支援を行ってきた。また、全国学力・学習状況調査、飯南町学力調査、島根県学力調査の結果をもとに、日々の授業を振り返りながら、学力向上に向けた取組の実践および評価・改善を行っている。

授業において、意欲的に課題に向き合おうとする生徒が育つなど、これまでの取組には一定の成果がみられる。しかし、一部には学習に困難を感じている生徒もおり、学力調査の結果でも県平均を下回るなど課題も多い。また生活調査を分析すると、メディア利用の時間が長く、家庭学習の時間が短いことが分かった。

## 4 今年度の学力向上に向けた取組の重点と具体的取組

一昨年度からの取り組みを継続し、今年度の学力向上に向けた取組の重点は以下のとおりとする。

- 教員の授業力の向上
- 生徒の学びに向かう姿勢・主体性の育成
- 学校全体で、家庭学習の工夫と充実を図る

個々の教員の授業力向上をめざしながらも、授業と結びついた家庭学習となるよう宿題や課題の出し方を工夫し、充実を図ることで生徒の学びに向かう姿勢・主体性を育成し、さらに学力向上をめざす。

教員間において、一人一授業や授業研究等を通じた組織的な授業改善を推進し、個々の教員の授業力の向上をめざす。すべての授業で「めあて」と「ふりかえり」を明確にして、生徒が学習の見通しをもって授業に向かえるようにする。さらに、初任研の示範授業や日常的な授業の互見を通じた意見交換、ICTの有効な活用方法や協働的な教材研究・情報交換等、校内での教職員同士での学び合いが活性化されることをめざす。

また、学級経営・教科経営において、ねらいを明確にし、教室環境を含め学習環境を整えることで、生徒が集中して学習に向かえる環境が整い、学び合う集団づくりの基盤をつくる。グループ活動や話し合い活動での発表や意見交換を積極的に取り入れるとともに、教師の発問や指示を吟味し、生徒にとって主体的・協働的な学び合いの場を設定する。

家庭学習については、学習ガイダンスを行い、生徒が学習に向かう姿勢・環境を意識して学習に臨めるようにする。赤中テストは、数学・英語の2教科で行い、生徒に意識づけを行い計画的に取り組ませることで、学習習慣の定着に繋がるようにする。一人ひとりの生徒が能力に応じて必要十分な家庭学習が行えるよう、課題の工夫だけにとどまらず、生徒の学びに向かう姿勢や主体性の育成にも、全教職員が学校生活全般を通して指導を徹底していく。

## 5 評価・検証について

国・町の学力調査の結果を分析し、授業改善等を試み、本研究の評価・改善を行う。学力面だけでなく、質問紙の項目についても検証していく。また、学習アンケートを年度末に実施し、授業改善及び本研究の評価と検証をしていく。

### 教員の授業力向上

#### (1) 学力調査を生かした授業づくり

- ① 「誤答」分析を通して、「つまづき」を把握する。
- ② 生徒の実態把握に留まらず、該当学年、下学年での授業づくりへ反映させる。
- ③ 「授業アイデア例」を積極的に活用する。

#### (2) 一人一授業

- ① グループごとに授業研究を実施する。
- ② 「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業（略案：目標と展開計画）と研究協議を実施する。
- ③ 「指導の重点」（島根県教育センター）の活用
- ④ 「授業チェックシート」の活用

#### (3) ユニバーサルデザインを意識した授業改善

- ① 本時のねらい（目標）を明確にする。
- ② 適切な「めあて」を示す。
- ③ 授業の流れを明確にする。
- ④ ユニバーサルデザインの授業実践
- ⑤ 振り返りの時間を確保する。

#### (4) 学習アンケート（年度末）の活用

- ① 年度末に学習アンケートを実施する。
- ② アンケートをまとめて、職員会議で共有する。
- ③ アンケート結果を授業改善に生かす。

### 生徒の学びに向かう姿勢・主体性の育成

#### (1) 生徒が学びたくなる授業づくり

- ① 課題提示の方法や発問、指導過程を工夫する。

#### (2) 学習カウンセリング

- ① テスト2週間前から実施（学習全体に関する内容）
- ② アンケートで集まった内容は、授業中に生徒へ返す。
- ③ 面談は希望者とする。（昼休み・放課後実施）

#### (3) テスト計画表と振り返り

- ① 計画と振り返りを行い、学習状況を可視化する。
- ② 計画表を学年部で確認する。
- ③ テスト後、素点と一緒に保護者へ

#### (4) テスト前放課後学習

- ① 各学年部で実施方法について検討する。

#### (5) 赤中テスト（数学・英語 5 回ずつ）

- ① 月に1、2回実施する。
- ② 数学、英語を順番に実施する。
- ③ 計算、単語と連語を中心に出题する。
- ④ 学習アンケートを年度末に取り、検証する。

### 家庭学習の充実

#### (1) 授業⇄家庭学習のサイクルを意識した各教科からの宿題・課題

- ① 職員会議、小中・中中連携会議で効果的な宿題・課題の出し方について話し合い、共有する。
- ② 話し合った内容を生かし取り組む。
- ③ 学力調査の意識調査で結果を分析する。

#### (2) 家庭学習（学習方法）の確立を図る

- ① 家庭学習の取組について教職員全体で共有する。
- ② 生徒の実践に対し、適宜フィードバックを返ししながら学習方法の確立に向けた支援を行う。
- ③ 学年末に取組について振り返り、次年度の改善方法について話し合う。

## ユニバーサルデザインを意識した授業改善

- ① **ねらい(目標):生徒に身につけさせたいこと**  
学習指導要領、育成したい資質・能力、生徒の実態などを考慮して、適切に設定する。
- ② **めあて:「活動のゴールの姿」「ゴールとそれまでの道筋」を生徒の視点で示すもの**
  - ・本時で生徒が目指すべき姿(ゴール)を生徒に分かりやすい言葉で示す。(例)「～活動を通して、〇〇ができるようになる。」
- ③ **授業の流れ:「めあて」「ふりかえり」など授業の流れの明確化**
  - ・本時の流れを明確にし、生徒に示す。生徒が授業に見通しをもてるようにする。
- ④ **ユニバーサルデザインの授業実践**
  - ・チョークの色(白・黄色をメインとする。色覚対応チョークを使用する。)
  - ・黒板の周りに掲示物を貼らない。
  - ・タイマーの使用(時間を意識させる。終わりを明確にする。)
  - ・一時一事の原則(1文で1つの指示をする。)
  - ・視聴覚資料の活用(具体がつかめるようにする。)
  - ・場の構造化(整理整頓、物の置き場を決める。)
  - ・タブレットは指示があったら、開く。
  - ・ペア学習、グループ学習の場の設定
- ⑤ **振り返り:生徒が学びの成長を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげること**
  - ・振り返りの時間を確保する。学習内容に加え、対話的な活動等を通した「学び方」や自分自身を見つめ直して気づいた成果や改善点、意欲などメタ認知に関わる記述や発言を促し、学びの質を高める。
  - ・生徒がどのように学びの成果をとらえているか把握し、次時以降の学習活動に役立てる。

### <板書例>

めあて ○○○が分かる。

授業の流れ

1 ...

2 ...

3 ...

4 振り返り

まとめ ○○を利用することで、△△が

## 6 校内研究について

本年度は、出雲教育事務所学校訪問指導を活用した授業研究により指導方法の検討を行う。また各学期に研究部での分析、研究職員会議を実施する。一人一授業を行い、グループごとに授業研究を実施する。授業研究の視点については以下の通り。

### (1) 授業研究の視点

研究主題にそった視点をそれぞれの授業者が提案する。

Y: >R6 赤来中 >5 研究 >01 研究 >01 校内研究 >03 1人1授業

### (2) 授業研究の進め方

- ① 課題や学習過程を示し、見通しのある学習(略案)の準備をする。
- ② 教員を少人数の3グループに分け、グループ内で授業を見合う。
- ③ 授業者が設定した視点や授業全体を通して、「good(良い点)」「improvement(改善点)」について話し合う。
- ④ 意見は付箋紙を使い、GIチャートに直接貼り付けて記録する。
- ⑤ 授業者は生徒の振り返りシートやGIチャートをもとに振り返りを行う。

#### ※授業グループ(案)

グループ	グループメンバー	授業研究参加者
I	植田(音)、江角(数)、三浦(国)、永田(英)	管理職、研究主任
II	松本(数・体)、矢飼(英)、岡田(社)、久家(理)	管理職
III	桑原(数)、高見(英)、松田(社)、青木(保体)	管理職、研究主任